

公益財団法人 日本ユニフォームセンター

研究報告書概要 (1963～1982年)

乳・幼児衣料研究会レポートNo 1

乳児のプロポーションは、成長に伴い著しく変化する。同時に運動の質と量に変化する。育児学では、乳幼児は自由に動きまわって、直接肌で触れるなどの体験をとおして知識を深めるといわれているので、これは心の成長にも影響する。このような観点からプロポーションと動特性に適合・適応するウルホルム (ur-form 原型) を作り、それを着せ勝手と着くずれの面からチェックをして、修正を加え、プロトタイプ (prot type 実験で確認された原型) を作製した。

乳・幼児衣料研究会レポートNo 2

幼児期は、一個の社会人としてひとり立ちを始めるための準備期である。そこで、上手に育てないと、精神面でも肉体系でも成長をゆがめられるおそれがある。前進的な意欲を見通して、積極的に次の段階へ導くシツケが必要になってくるのだ。これを育児の面から見れば、衣服に対する基本的感覚として、

- 1) 自分で着脱すること
- 2) きちんと着ていること

が幼児期に身につけねばならぬ習慣の一つであるといえる。したがって、この習慣をシツケやすい服—シツケ服が、幼児衣料のあり方といえる。幼児の体型をリサーチし、シツケの方針を加味して、能力に適応した衣服構成をもつウルホルム (ur-form 原型) を作り、改良を重ねてプロトタイプ (prot type 実験で確認された原型) を作製した。

乳・幼児衣料研究会レポートNo 3

ベビー外衣の本質的役割とは、衣服気候調節である。というのは、ベビーは大人や幼児に比べ、体温調節が不完全であるという生理特性をもつ。その不完全性を衣服によっておぎなわなければならない。衣服気候とは、衣服と身体の中の空気層の温度、湿度、気流のことであるが、重ね着をした場合は空気層が厚くても薄くても適切な衣服気候を保てない。この空気層の適正量を、衣服寸法でどう表現すべきか。さらに、重ね着の場合はどうあるべきかが問題となる。同時にこの寸法上のゆとりは、運動や体圧迫面にも関係をもつ。こうした面から実験と修正を重ね衣服空間の寸法を導き出した。

アイレストホワイト

1944年、アメリカの色彩学者ムーンとスペンサーの著書、「照明設計」によると、事務所の照明は、事務機器の明度が5～6度の間、壁の明度は8度前後がもっとも眼の疲労度が少ないことが記されている。この環境での最適のユニフォームは、両者の中間の明度7度といえる。しかし現在（1963年）日本の病院は、医療器具も壁も白中心でたいへん明るく、壁も医療器具も、一般的な事務所の場合より2度近くも上がっている。環境にマッチし、しかも類似調和と識別性のある病院内でのユニフォームは、明度9度の位置にあべきである。この考えから生まれたのが新しい白—アイレストホワイトである。アイレストホワイトは「白すぎる白から柔らかいナチュラルな白」を表現した目の疲労を防ぐ、理想的な白といえる。

農薬散布用不織布作業衣の実用化の研究

昭和46～47年において、農林省（現農林水産省）が全国農村作業安全協会に委託して「農村防除用適正作業衣に関する研究」を行っている。この研究では、一般に広く農家の着用を想定したものは、気軽に着用するということが主眼がおかれるべきであり、ある程度の安全性が確保されれば、耐久性に少々問題があろうとも、低価格で着心地がよいことが必要と考えられる。そのため、将来における実用が期待されるものとして、使い捨ても可能とみられる低価格材料である不織布を利用することを検討した。本研究では素材の選択、デザイン、着用試験を重ねプロトタイプを作製した。

ホームヘルパーと保母、寮母ユニホーム企画書

ホームヘルパーと保母、寮母を対象に、その人数、仕事内容、取り巻く環境から彼らの抱える問題点を抽出し、その解決方法のひとつとしてユニフォームの改善を提案した。デザイン、色彩、素材、形状等様々な視点から考察しており、ホームヘルパーユニフォームの改善、改良と普及をねらいとしている。

体の不自由な人のための働き着

昭和49年に発足した福祉衣料研究会では障害を持った人の衣服のデザイン、製作に取り組んできた。その第一段階として7名の在宅障害者に対し、個別に衣服のデザインと製作を行った。第2段階としては、個々のケースではなく、より多くの障害者に役立つような衣服「作業場面における作業服の開発」を行った。

第2回 体の不自由な人のための働き着

福祉衣料研究会のこれまでの研究では、CP者は下肢が変形、短縮しているためズボンが合わない、また脊損者は下肢が著しく細いため合わない、かつ褥瘡等を考慮した素材がないなどの問題があった。そこで第3段階の研究として「素材の点で考慮すべき点の多い脊損者に対象を絞ったズボン—褥瘡防止の点で大切な下半身衣料の開発」を行った。試着修正を重ね、かたち、素材、色彩等について基本型が完成した。